



友人の母に  
ゆつくり出し挿れ

優斗

1



友人の母に  
ゆつくり  
出し挿れ

優斗

1

禁断の初体験

---





いいのよ  
気にしないで...

今日の晩ご飯  
すき焼きなの一緒に  
食べましょうね.....



あはい...

こっちの方こそいつも  
お邪魔しちゃって.....



どうぞどうぞ  
召し上がれ...

じゃ勉強  
頑張つてね...



はい...じゃあ  
コレいただきます











俺…前から  
奥さんのこと…

雄太君…ダメよ…  
隆男が  
帰って来たら…



あつ…



どうしたの…?  
手に凄い汗かいてる…

そう…あの子…  
そんな彼女が  
いたんだ…



え？ラブホ…



隆男は…彼女と…今夜  
ラブホに泊まるって…



はい…

フフ…じゃあさ  
雄太君も一泊しちゃう？

—え…



オ…俺…女性に  
こんなことするの  
初めてなんです

雄太君って  
まだ童貞だったの…







素晴らしいわア  
うまいわよ…

あっ



あっ…もつと  
クリトリスを集中的に  
強めに舐めて…

はっ

その方が好き  
なの…



はっ…あんっ…

凄く感じちゃう…

そこもつと  
ねちつく舐めてエ…

はああんっ…



もう勃起してるの？  
さっそく  
早速入れてみよっか…

あっ…



うっ…

あっ ああっ…

そう…そのまま…  
ゆっくり入れて…

ペニスの先を  
アソコの入り口に  
あてて…



ああっ…  
女性の中ってこんなに  
温かいんですか…

そうよ…もっと  
奥まで入れてみて…



雄太君の  
奥まで届いてる…  
全部入ったのね

あああつ…

もうあなたにとって  
私は「友人のお母さん」  
じゃなくて……

一人の女になったのよ  
「静恵」って名前で  
呼んで……



じゃあ今度は…  
ゆっくり出し入れ  
してみて……

あはい…



はっ

静恵さんの  
ヒダヒダが  
絡み付いてきて…

この感触 言葉に  
できませんよ…

あつ

あつ…雄太君の  
大きな力りが…  
凄くいいの……

あうっ…

そう 徐々に速く  
奥まで突いて…

ああっ…雄太君…  
もう立派な男性よ…

もっと激しくガンガン  
突いていいのよ…  
あああっ……

はっ ああっ…

凄い乳首  
立ってますよ…

だって…

その おねだりする顔  
可愛いですよ…  
静恵さん……

もう 雄太君ったら…

その おねだり  
叶えちゃおうかな…

——え？  
どうやって…？

あっ…

あつ もっと触って  
クリクリして…  
SEXしながら  
乳首を責められるのも  
好きなの……

あぐっ…

はっ

ああっ…  
コレいいわア〜

最高よ 雄太君…

静恵さん…  
また出ちやいそう  
ですよオ……

このまま中で出してエ〜  
大丈夫だから…  
一緒にイキたいの〜

ああっ…  
静恵さん 出る…

雄太君…  
来てエエエ〜



イクッ…

あつ…

ああああんっ…



だから…あのく

もう一回しても  
いいですか…?

もう元氣ねえー  
嬉しくなっちゃう



はいもう…  
最高でしたよ…

どうだった?  
初体験…



分かってます

いい?  
このことは  
二人だけの秘密よ



友人の母に  
ゆっくり出し挿れ  
【分冊版】

1

© 優斗／大都社／秋水社